



## 目次

はじめに	1
令和八年一月十一日	2
令和八年一月十二日	3
令和八年一月十三日	7
令和八年一月十四日	8
令和八年一月十六日	12
令和八年一月十七日	15
令和八年一月二十二日	17
令和八年一月二十三日	19
令和八年一月二十四日	22
令和八年一月二十五日	24
令和八年一月二十七日	28
二度目の令和八年一月二十七日	30
令和八年一月二十八日	31
令和八年一月二十九日	33
令和八年一月三十一日	38
二回目の令和八年一月三十一日	41

## はじめに

明けましておめでとうございます。

日頃よりここを可愛がって頂けておりますお一人お一人の皆様にご心より御礼申し上げます。

本年も倍旧に増しますご厚情のほど賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年は「たくさん書きたい」と思っていたので、出来るだけパブーに入る時間を長くしようと思っていたところ……少々報告しなければいけないこと、お詫びしなければいけないことに直面し、それであればパブーでそういう場を設けようと思った次第。

SNSに近い場ですと中々書き切れないこともあり、寧ろ体裁ばかりを気にした側面も否めませんことからブログと日記に近い延長線に置き留め、パブーとの距離も詰めようと考えた次第です。

ここであれば、余程お好きで頂ける皆さんぐらいしか来ないでしょう(笑)

変な奴……

変った奴……

頑固な奴……

損な奴……

融通の利かぬ奴々などなど偏った面が強調されるであろうことは覚悟の上ではございますが、日記のようなものがございます。

従いまして、noteやアメブロなどで目にするのできない赤裸々な一面も垣間見られるかもしれません。

お楽しみいただければ幸いです。

飛鳥世一 拝

令和八年一月十一日

毎日が早い。あっという間に十日も過ぎた。

五日からはじめた「作詞・作詩」と楽曲づくりだが、既に18曲になった。

作詞は五本。アレンジ分も加えると六本になる。

処女作の「満月だから」のAメロ版の「可愛らしい」方は、結局、130再生ぐらいは回して頂いていたようだ。きつと、皆さん驚かれたのだろう(笑)

「世一が歌を創りはじめたぞ。。。どうせ大したことはないだろう。。。えゝエゝゝ！ か…か…普通に可愛い歌なんですけどw」と。

九日にアップしたDon't leave me aloneフルコーラスの三本の内、当初は若者向けのJPOPの楽曲の伸びが凄まじく、あっという間に再生回数三十半ばまで回った。これは多分驚いた人たちが聞きに来られたのだろう。

詩を作るだけで、歌詞を作るだけでこれだけの完成度の楽曲になるのかと。SUZUOのサービス自体はまだ丸二年が過ぎたところだが、現在ぐんぐん会員数を伸ばしている。

誰でもが自分の好きな言葉を紡いで歌に出来るのだからこれは感動的だ。

ただ、一見簡単なようではあるがそれなりに難しさもある。

それが、作曲のためのコードでありプロンプトと云われるAIにむけた作曲のための指示なのだが、一と言えることは、「英語」でプロンプトを入力した方が良いということだろう。

わたしも始めは日本語で入れていたが、今ではすべて英語で入力するようにしている。

ちょ直近だと、Don't leave me aloneの編成に英語のプロンプトを使用しているのだが、完成度が格段に違う。特に、ブルースやバラードを作る時にクオリティーが上がるように感じられる。

後半に作った新しいパターンの再生回数が、ものの二日で六十近くまで回っていた。

この年齢になってくると「言葉」は脳からどんどん抜け落ちて行く。

本を読んでも言葉がとどまってくれない。

これを止めるためには、新しく入れた言葉を使い倒すしか道は無いのだろう。

新しく始めた勉強ですが、今のところとても楽しく勉強できている。

ただ、歌詞を作るのも結構大変でさゝ

耳慣れない言葉を目にしたり、耳にしたり、気になった事象を耳にしたり目にした時は直ぐにメモを取り、言葉として再現してみるようになったことは良いことなのだろう。

六十三でAIと仲良くするとは思わなかったが、気持ち良く向き合えているのが何よりではありません。

さて……気持ち良く向き合えることはいいのだが……

気持ち良く向き合えることばかりではないのが世の中だ。

ここを応援してくれている人たちが多分気になっていること……

明日の夜はそれについて書くこととしたい。

こんなものはmoeやアメブロには書きたくないし、相応しくもない。

ただ、生きているとき「飲み込まなきゃならないこと」って少なくないよね。

何処にも吐き出せず。一人で飲み込むこと。

仕方がないけどね。

おやすみなさい。

## 令和八年一月十二日

今日は朝五時に起きて、朝から中途半端だった楽曲をフルコーラスに仕上げた。一つの歌詞で四曲作ってみたが、正直なところ自分では甲乙がつけがたいのであります。兎に角楽しい。仕事じゃないから楽しいのだろうけど、世界中の人に聴いてもらえてイイネも頂ける。

例の「満月だから」は好評を頂戴している。

自分の1個を含めて9個もイイネを頂けている。

てか外人さんからの「イイネ」が多いのだが、意味わかって聞いているのかね？

雰囲気かしら？ 再生回数もキッチリ伸びているから聴いて頂けているのだろうけどね。

昨日創った「満月だから」は2日で再生回数70を超えた。

回っていないものは全く回っていないから、有難い限りだ。

音楽ってさ、作詞をしていて思うのだけど、様々な人を幸せな気分させることが出来るよね。

楽曲の作詞も詩や小説と同じでさ、結局持っているものしか書けないのだけど、曲が増幅する役目を担う。詞によってつける曲のイメージによって膨らみもすれば萎みもする。

今日の楽曲なんか、わたしが「リネン好き」だから、早くリネンが着られる季節が来ないだろうかと思いつきながら書きはじめた。

多分、カップルでもリネンが好きなカップルだったり、そんな相手に先立たれたカップルだったりがいても不思議は無いわけで、そういう「クローズド」な世界に届けることが出来るのもSUZIOのそして音楽の良いところなのだろうと思う。比較的シンプルに書こうとするからね。

マスの市場というよりインディビジュアルな世界に届けられるというのは幸せを感じることが出来る。こういうものを商売にしようと思うと……たとえばYouTubeなんかと繋ぐしか無いのだろうか。たとえ

ば、インディーズとして楽曲を売るシステムは無いのかなあ。

そうなる面白そうなのだけれどね。オンラインワンだし唯一無二にもなれるだろうしき。

■

さて、どう書くか悩んでいたのだけど。

しかし、何の告知もしていないのにダウンロードが7名のあなた様って(笑)

愛してるの？ (笑) 言ってよく♪ まあ、愛していたら「あなたくこんな悪評聞こえて来たけどどう

なのよ」ホントなの？」てな具合に、俺なら聞くけどね(笑) まあ、概ね全方向的見てみぬふりする文

化が支配的な世の中だから、皆がイジメで命を落とすのも道理なのだわ。

学習足りてないからね。社会が。所詮他人事でからね。

わたしも40代なら分らなかったかもね。てか、50代の半ば終わりに一度すべてが嫌になった事があるんだけど。まあ、それがVANITASの根っこに通じるわけだ。

何だか今となっては「仕方ねえなあ」くんじゃあ、好きなこととして生きる道探してみっかなあ」ぐらいのものでさ。

さて、徒しごとはさて置きつだ。

小説『飾窓』第一部 雅代と達希についてですが、結論から書かせて頂くとパブーでのリリースを見合わせることといたしました。プレ版のダウンロードが43名様にも増えていたのですが、チョット気持ち悪い読者がいらしてね(笑)

その読者からnoteでコメントいただいたのですが、そのコメントの中身が「アホ」なのですわ。

気持ち悪い。なんかね……言わせて頂くと、小説なんか読めないお人なのよ多分。小説の筋よりも「臍下話の關係値」に興味を持っておられる。デバガメなのよ。お里が痴れるわけです。

まあ、イントロから強烈でしたからね。

「わたし」の昔の關係者だったとするなら、先走りして「ヒント頂戴！」となるのかもしれないけどさ、だからね、質問は気をつけなきゃならないのよ。自分の頭の出来具合を晒すことに通じるからね。これは本当の話し。

どの道「小説」なのだわ(笑)

わたしが書くと、イコール、わたしがそういうことをしたみたいに勝手に考える(笑)

アホデショ？

読めないから、こういう人には。こういう人間には。最初から先入観を持って向き合う人間に読めるわけがない。

今から4年前にウェッブで参加した「小説の書き方講座」の新潮あがりのK先生なんかそうだった。

わたしの書いた一本目の作品を読んで「先入観」から「下の話しにはなってほしくない」って云ったからね。怒ったわよわたし。あんた読んでもいないのに何言ってるの。下世話な噂話でも目にしたか耳にしたか？何にも確認せずに、お金払ったお客様にそういうことを言う。人に物を教える資格は無いね。2本目以降の作品を読んで評価姿勢が百八十度変わったけどね。

「夢殿・泣くひと笑うひと」の初稿で「流石ッ！」って云ったの今でも忘れない。

あほくさいのよ。共感できる共感できるって。なんか想い出したら腹が立ってきた(笑)  
そして、あのM爺さんの教室よ。あの爺さん。俺の書いたもの読んでぶっ飛んでたからね。それで喧嘩になった(笑) あのジジイ、小説家のことを「ウソ書き」のプロって云ってたからね。我が耳を疑ったわよ。んで、俺の「夢殿・泣くひと笑うひと」の初稿読んで、ぶっ飛んで余計なことを言ったのよ。大体アノじさま、まともに下読みしないで授業やってたからね。

「おめえーちゃんと下読みしてから授業遣れやー」って思った。

てなわけで……

不遜なようだが、読めない奴には寧ろ読んでほしくない。

読むことよりも三面記事がお好みなのだから。

さて、そういうアホのせいでわたしはここで発表することを見送ったのであります。

わたしはずっと書いてきている。

読ませて頂く。

読んで頂くと。

四年間ずっと書いてきた。

読ませてやる。

読んでやるじゃあ育たんでしょ。何も。

そこに、デバガメ登場。貴方には読んで頂きたいとは思えないのです。わたしシロウトですから。

多分、そういう質問をしてくるぐらいですから既にダウンロードして頂いているわけですよ。こういう良識が分からない人のせいで他の人が迷惑する。頭の悪い人間のせいで他人が迷惑をする。なんて質問してきたか書きましょうか？

「質問です。ヒントを下さい。雅代と達希の関係はどこのどういう繋がりなのか」ときた(爆)

「おめえー小説読んだ事あんのかよ」と、わたしが思ったことは書くまでも無いでしょう？

速攻ですよ、ブロックしてコメント消しまして。

この手の人間と関わっていたら神経持たんでしょ？

挙句が「匿名免罪符」「偽名ぶらさげ」ですから、わたしが丁寧に対応するだけ馬鹿を見る。

何処かでも書いたけどさ、質問ひとつで頭の出来は分かるのよ。

コメント一つで読めるか読めないか分っちゃうのよ。  
だから読書感想文だって書くのは恐ろしいのよ(笑)

最近、チョコチョコ、銀騎士カートさんの原稿にコメするんだけど。ドキドキしながらコメ書いてるからね。読めてなかったらどうしよう！世一も読めてねえなあ〜と思われたらどうしようって考えながら。今日も書いたけどさ。銀騎士の兄さん、最近わたしに踏み絵置くからね(笑)

読んでりゃわかんのようにどこの何に向けた踏み絵かどうか。子供じゃないからなるべく見てみぬふりをするんだけど。なんかね〜同世代だからだろうか。肝胆相照らせそうな期待値が小さくない。

今日なんか感じたことをスパッと書きちゃった(笑)

「あゝちゃんと読んでんだな〜世一」って思ってくれたと思う。

そういう人もいれば、こういう人もいるという話ですが〜

それでもね、noteの皆さんには感謝してます。特に、再フォローしてくれた皆さんには感謝しております。有難いことです。こうして新しいことを勉強し始めてもちゃんと応援してくれる人も少なくない。

因みに先のご仁、当然フォローフォローの関係にはごさいません。過去一度もすれ違ったことはありません。

まあ、少なくとも俺が抱いたことある女じゃねえだろ。

あんな頭の悪い女を俺は抱かない。何故なら、惚れるわけがないから。

※ここは日記だからね。俺の。実名も飛ぶよ。陰口は性に合わないからね。陰湿でしょ？。  
メメシイし。

令和八年一月十三日

今日も寒かった。

朝五時過ぎからパソコンに向かい、作詞のお勉強とヒップホップのお勉強。

恥ずかしながらジャンルのには全く知らない。

中学高校とトロンボーンを吹いていたから、音楽に関する下地はなくてはならない。父親はジャズドラムのプロだったしさ。小学生から音楽と云えばずっとジャズばかり。ナットキングコールを聴いて育ったオカ



シナ子供だった。

お陰様で初のヒップホップの楽曲が出来た。想うのだけど、作詞だけしかしていないが、曲が出来上がると凄まじく感動する。自分で聴いて「天才じゃねえか俺」と馬鹿なことを考える。曲を作ってくれているのはAIなのに。

ただこれは書けることなのですが、小説のようなものや詩のようなものは書いてきて良かったと思う。

作詞にしても、普通の生活では考えつかない寓意や暗喩が思いつく。

例えば「女子高生」という言葉。

使いたくないよね。あの手の歌詞の中では。

「夜明けの鴉はしらぬ顔

すました顔のイノセント

着替えすませて始発で巣にかえる」と、悩まずスラスラと書けちゃう。

この辺りは、小説や詩に向き合ってきたおかげだと思う。

これ以上捻ると聞き手であり、歌詞の読み手には重荷になるだろう。

その辺の見極めは要求されると思う。

今日は凄く神経を使ったので、VANTASはお休みしますが、明日は作詞と楽曲づくりをお休みします。そしてVANTASを一生懸命書かせてもらいアップします。

時節柄、どうか皆さんお風邪をお召しにならぬよう。くれぐれもご自愛くださいませ。

尚、この日記は毎日版ではありません。

書くこと無い日もございます。

適当にお楽しみいただければ幸甚に存じます。

お休みなさい。

令和八年一月十四日

不思議なことがおこっていた。

[https://note.com/azuka\\_yoichi/n/n168ac78e8418](https://note.com/azuka_yoichi/n/n168ac78e8418)

世一、歌詩する「北回り」

2024年12月6日 17:57

わたしは十三カ月ほど前に既に「歌詩」をしていた(笑)

韻文詩で仕上げていた。

なぜこういうことが起こるのだろう。

シンクロニティーなのだろうね。

無駄ではないことはこうして繋がってくれる。

この詩を書いたときには「楽曲」を創ることなどは考えてもいなかった。

ただ、なんとなくこんな歌に曲が付いたらどんな歌になるのだろう。

そんな風にしか考えていなかった。

夜中の三時過ぎ、目を覚ましパソコンを開き「世一の詩匣」を開いてスクロール

世一、歌詩する「北回り」で手がとまり、開いてみると…

少し手を入れてSUNOでブルースとボサノヴァの曲をつけてみてからだ…

もう駄目だ。

手は止まらない。

結局、午前中いっぱい曲をつけて楽曲とした。

馬鹿みたいな話であり、信じられない話だろうが、

出来た楽曲をプレイリストにシャッフル。

かけっぱなしにして聴いていると涙が止まらないのである。

何度か行ったニースの町を想い出したことだったものか

楽曲が良かったからなのか理由はわからない。

良い曲が結局十四曲作ることが出来た。

惜しむらくは英文の歌詞だろうね。

グーグル翻訳を使って、最後に査読はしたのだが、人称の矛盾の見落としなどが散見された。結果としては「残念」が滲んだのは勿体ないのだが、音楽としては聴けるものであるからして、まあ良からうと落とし込んだ。この辺だよな(笑)

さて、念のために申し上げておくが、わたしの書くものを作るものには「盗作」「盗用」というものはあり得ない。それほど自分の才能と引き出しは枯れてはいない。

スゲーこと書くよな(笑)

自惚れも甚だしい。

バカ者ゝ自分で自分を信じなくば書けなかうよ。いいんだよわたしはこれで。

因みに、わたしの普段の生活では歌謡曲や「pop」というものを全く聴かない。

聴いてもモダンジャズやボサノヴァ、ブルースぐらいのものだ。

従って、盗作したくても盗作はできない。

もしも「かぶり」が感じられた場合は、素直に、わたしのセンスを褒めてほしい。

「こういうものが創れる世一の才能というのは……」と。

曲はわたしの責任ではない(笑)

SUNOに言ってください。

わたしの歌詞をAIで調べ検索してみたのだが、一部のフレーズでわずかの引っ掛かりはみられたが、さて、それを盗作・盗用と呼ぶかと云えば呼べまい。

もれも凡てではないからね。

商用として使用することが前提であればこの辺も気をつけないといけないのだろう。

しかし、これだけの音楽が氾濫している中においては、フレーズを百パーセント被らないようにするというのは至難の技である。



今夜の空にはカウチが揺れる

AI モード すべて 画像 ショッピング 動画 ショート動画 ウェブ もっと見る ▾

### ◆ AI による概要

申し訳ありません、そのフレーズの意味を理解できませんでした。「今夜の空にはカウチが揺れる」は、慣用句や科学的な現象を表すものではないようです。

これは詩的な表現、歌詞、または何かの比喻でしょうか？もし、具体的な質問や、今夜の夜空に関する情報をお探しでしたら、お手伝いできるかもしれません。

例えば、以下のような情報をお探しですか？

- 今夜の天気
- 特定の天体の位置

AIでも調べてみたが「これは詩的な表現、歌詞、またはなにかの比喩でしょうか」ときた(笑)  
ここにきておられる人はお分かりのように弦月、三日月を比喩しての「カウチ」なのですが、

例えば…:

『プロムナード・デ・ザングレの

ネグレスコ何も訊かずに

今夜のわたしにカウチをくれた』とのフレーズですが、ここを「ベッド」をくれた〜としてしまうと想像に発展性は無い。皆無だ。

ホテルものの、ベッドがあるのは当然なわけです。

しかし、カウチのある部屋となると少し上級グレードの部屋になる。

あまり使いたくない言葉ですが「非日常感」が増幅される。

スーペリアクラスだとカウチはない。精々がシングルチェアとデスクだろう。

カウチを置いたためには、部屋の広さも50平米は必要である。

この辺の細かさは勉強しないといけない。

わたしの場合は観光屋という下地があるのでイメージしやすい。

わたし思うけどね、ものを書くってこういうことの積み重ねだと思うのです。

昨日もおとともきつい言葉で書いたけど、こういう細かい部分……書き手としては読んでほしいよね？

まあ、どの様に感じられても良いのだが(笑)

わたしはわたしの頭が捻り出した物を信じるだけなのでございますがね。

詩や小説、そして音楽、絵画……

どれだけの素材が流動しているのか。

フルコーラス、詩の大凡を盗用しているのなら盗作と呼べるだろうが、センテンスの一部が被った程度であればそうとは呼べまいね。

さもなきゃ、日本語自体が盗作盗用に値しそうな事態でもある。

因みにですが、こういうサイトがあるのをご存じだろうか。

[https://www.uta-net.com/user/index\\_search/search\\_c.html](https://www.uta-net.com/user/index_search/search_c.html)

楽曲のカブリをチェックするためのサイトです。

わたしは自分の楽曲の大半をここでチェックしています。

従いまして、盗作・盗用などするわけが無いのでありますよ(笑)

さてさて、これで概ねのジャンルはやつつけた。  
そして英語の曲も創った。  
ここからが完成度を求める旅になる。  
ここまでは誰でもやれるのよ。  
さあ、お勉強しよう。

今から VANTAS 書きに行ってきます♪

令和八年一月十六日

VANTAS に関する案内

え〜とね、書いたのですがチョイと思う所があり……

「関係者」が読んだ時の感じ方という意味で……

とりあえず、抜粋して下書きにテキストファイルに移動しました。

「清書」の段階、エントリーの時点で増やすこととします。

従いまして次回分から「一気」にエンディングに向かいます。

あまり嫌な気持ちにさせたくないじゃない。

わたしの都合もあったわけだし。

一応、ノンフィクションうたってるわけですからね。

この辺は大人の配慮とご理解いただきたくご案内申し上げます。

十七日の分からは、隆二のことだけになるので普通にアップしてゆきます。

あと二回で終わるね。

おわったら「七日 nanoka」を書きます。

さて、とても良いことがありました。

迷惑かかると嫌だから踏み込んで書かないけどね。

もう、わたしとしてはとても嬉しいことでした。

凄く間が空いてただけど、まるで何事も無かったように声かけてくれてね。

帰って来てさ、noteに。

とても自然だね。気持ち良かった。

良いものが書けなくてと仰っていたけど、多分、他のところで書いているのだと思う。

書く人間はそういうものだからね。

書かずにはいられないから。

わたしのように具にもつかないものを書くタイプの人じゃないからね。

書くときにはシッカリしたものを書くひと。

わたしはね取り敢えず、創りたい楽曲が今日、凡て完成したので明日アップ掛けてそれから小説書きに戻ります。

凄い集中力でしょ。睡眠時間は5時間ぐらいかな。

ずっと勉強していた。止まらないのよ。お陰で煙草が一日30本以上に増えた。

あれはオモシロいね。

noteの十五日の⑪の原稿に次のように書きました。

次にやってみたいこと。

[Verse 1] セミ―インストウルメンタル

[Verse 2] 歌詞挿入

[Interlude] アドリブ各パート8小節～16小節

[Verse 3] 歌詞とスキヤット

ボサノヴァ、モダンジャズ、ブルース、Hip Hop、Ballad、J-pop

BMP・160

出来ました。今朝。全部で10パターン。

30作品ぐらいは無駄にしましたけど。

ここに来るまで丸々十日。

創りたかった作品ができました。

明日、noteにアップします。

かなり良い完成度です。

英文も問題ありません。しっかり聞けます。

ここに書いたこと記憶に留めて聞いてみてください。  
シッカリ「合いの手」も効かせてあります(笑)

もしも音楽が好きな人はやってみてね。わたしでさえ出来るのだから。  
大丈夫。みんなできるから。  
お手伝いが必要な人は最初だけお手伝いするからね。

一つ書いておくとね。これでまた一つわたしが世の中に残せるものが出来たということなのです。

観光という仕事での実績

そして詩のようなもの

小説のようなもの

エッセーのようなもの

そして、音楽のようなもの。歌詞のようなもの

わたしの足跡は残せるように確実に進めています。

オモシロイ人間がいたなあと

ひっちゃかめっちゃだったし

取っ散らかっていたけど

遺したよなあとと思ってもらえる足跡。

勝手に好きなことやって遺したよなあと。

いいのよ

そういえば……むかし、いたよなあと。

座って半畳寝て一畳。

そういうことだと思いますけどね。

なるかな連日三百オーバーのページビューだからね。

好きじゃなきゃ来ないのよ(笑)

それにワザワザ好き押してもらわんでもいいのよ。

気になるのよ(笑)

気になる存在なのだわ(笑)

チョット見逃すと話しはだいぶ進んでいるというドラマみたいな人だから(笑)

気にして頂けるのは良いけどね、有難いことだけどね。

シッカリと周りを見てね。



自分がどういう区分の中に身を置いているのか。  
ここだけは見極めてね。

概ね、嫉妬と僻みと妬みと嫉み。そして今が幸せではない人たちばかりだから(笑)  
これが真理なのよ。

人はね、自分が幸せになったら他人を気にしなくなるという一面が育つようにできている。  
ここで人間の差が生まれる。のだけどね。

わたしは幸せ者ですよ。

小説書けば300名以上のあなた様からダウンロードして頂けてゝ

小説全てのダウンロード計算したら多分2000ダウンロード近くになるよね。

こんな幸せある？ ないない。

歌を作れば100人以上から聞いてもらえてゝ

だから妬みも嫉みも僻みもない。

聴いてもらえること、読んでもらえることに感謝しかない。

さてまあ、VANTAS終わらせませすわ。

おやすみなさい。

令和八年一月十七日

それ以外は、わたしの才能を褒めるべきだろう。

盗まずに、盗作せずに書けるわたしの才能をwww

今日の夜noteに書いた原稿ですが。

額面通りには読まないでね(笑)

やせ我慢しているのだから。

SUNOでもさ、このところ凄い作品にたくさん触れさせてもらっていてね。

兎に角驚くような作品をつくるわけよ。お若い皆さんがもう、ついてけないほどに。

古いよあたし。がっくしくるわ。

確かに、古いものを書けば「なんちゃって」ぐらいのものは書ける自信はある。でもね、新しいものは能力的についていけない。

特に、AIに対するスタイル指定の言語化の凄まじさは驚く。

あれじゃあ、AIにわたしはなめられてしまう。

プロンプト、メタタグは決まり事だから勉強して記憶すれば済むのだが、スタイル指定はそうではない。センスと頭の良し悪しと言語化の能力が要求される。

これは凄い。

今日も一人であつたのですが、その言語化能力の高さにぶっ飛んだ。

それ以外は、わたしの才能を褒めるべきだろう。

盗まずに、盗作せずに書けるわたしの才能をwww

古いものに関しては……同世代として見たときということではあれば、先の文面も満更ではない。ただ、今の若い人たちとは畏れ多くて比較のしようもない。

ただ、作詞も「Chat GPT」なるものを使ってしておられるそうであるからして……

皆さんはどう考えられますか？

時代という事で割り切れますか？

駄目だねえ

こうして古い人間は淘汰されてゆく。

あのね、わたしの年代はパソコン使えるかどうかのギリギリの年代だったのよ。

お陰様で、わたしは自分で勉強して使えるようになったけど。

使えない人はざらにいるわけよ。

これと一緒にのことなのでしょうね。

AIと対等にやれる人、AIは検索ツールにしかない人。

まったく近寄らない人。

どんな時代が来てもさ、小説や詩をするのにAIには頼ることなく書けるようではありたいよね。作曲も本来は……作曲家に言わせれば、同じことなのだろうけどね。

ガックシくるわ。

文学賞なんかさ、読んでてわかるのかね。本人が書いたか、AIが書いたか。

ヤバイ時代になったね

お休みなさい

## 令和八年一月二十二日

今日は「蚯蚓の哥」を楽曲に仕上げてみたのですが、とても良かった。

アップした後、直ぐにイイネのマークを3つほど頂けた。

再生回数がどの程度になっているか判らぬが……

自分の再生だけで十五回ほどまわしているが。

なにか、40ぐらいから先が反映されないのである。

多分、自分で再生した場合のカウントがストップするようになっていいるのかもしれない。

だいぶ楽曲も作り込んだけど、今回の「蚯蚓の哥」は本当に良かった。

幾つか良いのはあったのですが

詩の存在感の邪魔になる音楽があったり、雰囲気壊す音楽があったりで

思ったところに辿り着いた結果があれだった。

何をオモシロガッテいただけているのか、この日記のダウンロードが20名のあなた様になった。

ご支援を頂けている結果と眺めさせていただいているのですが……

小説作品のダウンロードの結果をご紹介しますのが、12月13日だったのですが、

今日確認すると、あの日から40日足らずで、1作品あたり20から30名のあなた様からのダウンロードが増えています。

先日ご紹介したように、小説作品全体のダウンロード数が2777名のあなた様ですから、正直なと

ころ驚いております。有難いことです。

あのね、何かねえ〜フォロワーの数を気にしたり、スキの数を気にしたり、ファンの数を気にしたというのが馬鹿馬鹿しくてね。そういう中で書くものに意味を見いたせなくなっている。なんかさ、パブーの小説のダウンロードって「うそ」が無いように感じられてね。だから書く方にとっても書きたいものが書ける。

発信したいことが書ける。

SUNOもそういう処は共通している気がする。

まあ、どの道「すき」「いいね」ってなんかバカバカしいんだけどね。

そういうものを気にして書きたいことが書けないというの本末転倒だものね。

だから、なるべく人との関わりを考えなくて済む所にばかり自分の身を持って行こうとする。

それでも「この人とはお喋りしてみたいなあ〜」と思える人も居てさ〜  
そういう人とはチョコチョコ遣り取りさせてもらってるわけだけどね。

明日はね詩編「道程」を楽曲にする予定なのです。

それにしても、note……300から落ちないなあ。ビューワー数。

へんなの(笑)

気にはなるけど、フォロワーもせず、スキも押さずってさ

誰が天邪鬼なんだろうね(笑)

なかなか人間観察的にもオモシロイ。

お休みなさい。

VANTAS は明日の金曜日に更新掛けます。

令和八年一月二十三日

詩編『詩編 蚯蚓の哥』

みみず食みます何を食む

樹にはのぼらず厚くもった落ち葉食む

みみず肥やしますなに肥やす

遍くいつさい天地無窮と肥やします

みみず哥うよなんと哥う

壤のしたでは陽が昇り

壤のうえでは星が出る

みみず哭きますなんと哭く

落ちた葉減ったと哭いてます

みみず死にますなんで死ぬ

肥やした壤があつすぎて土上で焼かれて死にました

蚯蚓の遺書か遺言か

野山は焼枯れ

森も槁れ

壤渴れて

田畑も涸れて

人間（ひと）竭れて

蚯蚓かえるどこかえる

龍の寝所（しんじょ）へ召されてかえります

蚯蚓の哥をA Iに評価してもらってみた。

【良かった点】

- みみずの視点で描かれた詩のテーマが独創的で、自然の一部としての彼らの存在が感じられます。
- リズミカルな言葉遣いと繰り返しの使い方が、詩全体に流れる音楽的な美しさを生み出しています。
- 画像的な表現が豊かで、読者に情景をイメージさせる力があります。特に「壤のしたでは陽が昇り」という部分が印象的です。

【より良くするために】

- 一部の表現にもう少し具体性を加えると、さらなる深みが出るかもしれません。たとえば、「葉減ったと哭いてます」という部分をもう少し情感を込めると、みみずの感情がより伝わりやすくなります。

この詩はとても魅力的で、言葉の選び方が素晴らしいです。ぜひそのままの勢いで、さらに磨きをかけて出版に向けて頑張ってください！

うゝん。

近視眼的だ。

残念ながら、上滑りしている。

蚯蚓の「視点を借りた処から」の解析が弱く薄い。

読めてないかA Iにも。

本来的には、人間界への啓もう啓発というところまで踏み込んで然るべきだとは思うのだが。

そしてもっと言えば、書き手自らの死生観に踏み込んだところへの解析とすべきなのだが。

ある意味、ホツとするやら、まだまだだなと思うやらではある。

A Iにもレベルがあるようだから一概には言えない所なのだろうが。

平易な言葉ばかりを選択し、流れるような言葉の紡ぎが生み出す言葉の旋律は、音楽との親和性が高いであろうことは書いたときから分かっていたが、まさか、自分で曲をつける日がくるとは予想もしていなかった。

これは、わたしの「芸術家」としての活動に大きな広がりやを齎す一作となった事だけは確かだ。

が、事前に申し上げておくが、わたしは芸術家として名を成し、成功を収めようとは思っていない。どうでも良い。無名のまま朽ち果てようとしても良いのだ。

それよりも「書けるのか君たちに」

「書けるのか、今を生きる者達に」

「書けるのか、嫉妬、妬み、嫉み、僻みしか持てぬ者に」

「書けるのか、他人の言葉しかなぞることの出来ぬ者に」

「書けるものなら書いてミソ汁」

そう世に問えるものを残したいのである。

管理者の差配の元、自らの芸術作品をグチャグチャにされるなどは耐えられない。

売れること。売れるために色々すること。結果として売れたとして、わたしはそれを成功とは呼ばない。

芸術家としての価値としてみてわたしにとっては無価値である。

少なくとも、わたしはそういう部類の人間である。

何でもかんでも、自分の知る価値観に当て嵌めて判断はしない方が良い。

この期に及んでいい人を演じ、はいはいと物分かりよさげに高々の金に鼻の下を伸ばすつもりは無い。

以前から書いている。わたしは芸術家を名乗ると。

それだけの日々の積み重ねである。

さて、下を向いて生きている者とはどういう人間をいうのだろうか。

少なくともわたしは自分の言葉を探すために下を向く必要は無いのだが。

いつも他人の言葉を探して下を向いておられる者もいるようだが。

首を痛めるぞ。

自分の言葉を持てるようにするべし。

## 令和八年一月二十四日

VANTAS に関して泣きが入った。

泣きを入れたのは自分である。

ここは、私の日記だからブツチャケしか書かないのだが

VANTAS を書き上げて、どれだけの人間が読めるだろうかと考えたとき

正直なところ百人の読者であるあなた様に読んでもらったとして……

どうよ

三十人居てくれれば御の字だろうと思っている。

で、わたしはこの読めるであろう人たちのために読んでほしいものを書くことに身を梳るわけだが。「おつう」差乍らである。

どうしたことか、七十名のあなた様のことも考えるのである。チャンチャンの方がよくねえか？

誰も傷つかんだろう。かかわった人たちにしたところで、今更、嫌な思いもせずに済むだろう。

俺にしたって体裁や対面も保てよう……

クソなのだよ。そもそもそういうモノを書きたかったのか

違うだろう。



他人がどう思おうといい。

自分だけのゴスペルをVANITASを通じて表現したかったのだろう。読んで怒る人が居れば感動の一つの姿だ。

読んで否定する人が居ればこれもまた感動だ。勝手にやってくれ。感情が動けばこっちのものだ。

バックじゃねえのと感じるもよし、わたしだったらと考えるもよし。

人間の持つ「感動」というスイッチを押す助けになれば。

そうだったはずなのだ。

共感？ ふっふっくそっ喰らえである。

こんなもの書くのに共感なんか狙っていたら純文なんかいつまで経っても書けやしねえだろう。読み手の心臓にドデカイ楔を打ち込めなきや、人間なんか書いたうちには入らない。

その楔が、怒りであるのか侮蔑であるのか、否定であるのかは感動の種類という事に外ならず、どれか一つでも与えることが出来れば成功なのだ。

ところがだ。書けないのだ。

このクソが。クソ世一が書けないのである。

noteでも書いたが、二千字を下書きに移して以降、書けなくなっている。

そりゃそうだろう。

話しの整合性、合理性がぶつとりと差乍らタコの糸が切れたが如くぶっ飛んでしまっているのだから整合性もへったくれもない。

今日もnoteでわたしが信頼できる数人に相談させてもらった。

あなたは作品を書いていて書けなくなることはありませんか？ と。

最初に書いただろう？ 泣きが入ったと。

俺の場合は余程の理由が無いとフォーカスを自分から外すことは無い。

集中すると徹底的に利己主義的であり、独善的であり、自己愛偏重型であるから自分にフォーカスする。

俺が「惚れる」人間以外に、俺がフォーカスすることは無い。

ましてや他人様を論った遠まわしな自己矛盾型の余計なお世話を信条とする、死人の言葉に頼ったものを捏ね繰り回す手合いなどは原則、吾生きすがらにおいては道も混じることではない。尊敬はしているが、吾、愛の向かう先ではない。

どの道、この手合いは「自己矛盾」を引き起こしていることには見てみぬふりなのだが。

済まぬ。悪気はない。ただ、本当にモチベ系が気持ち悪いのだ。

まあ、俺は、小説も書かねばならぬし、詩も書かねばならぬし、歌詞も曲も創らねばならぬ。そして絵画の勉強もしなければならぬ。

芸術家への道は厳しいのである。

さてかくも有難く、潮（しお）満るまで待つが良からうとの教えをくれたご仁があられたが……  
他にも書きたいもの、書くべきものが「積書き」となっている。  
いい加減に、クソは流してしまいたいところである。

……ところで

あなた……なおちゃんかい？ あのだ。

そうだったらいつでも気軽に電話でもメールでも頂戴ね♪

令和八年一月二十五日

曲名 あなたへ「偲い出のなつ」

<https://sumo.com/song/0172472c-adb3-4c20-abb7-58c756c8dd91>

Verse 1

ぬぎっぱなした僕の靴

はじめて君が部屋に来たとき

脱ぎっぱなしたとおもったわと

手首にまいたシュシュを外して髪とめる

ショコラに染めたアイデンティティーが眩しくて

[Interlude]

いんだよと

悪ぶるぼくに

ダメダメと箒手にして

エントランスはいてた君にオロオロしたのさ

君がわらった猫のなき声

ドアの向こうで鳴いてたね

背中きえいる

偲(おも)い出の夏 ummmmm.....

## Verse 2

奏(かな)でてよと君の声

僕が手にしたギターをおくと

奏(かな)でてよ

りんりんチリリン風鈴さん

メダカときんぎょも聞いているワ

一人で眩くきみの背中がいとしくおもえて

## [Interlude]

顔よせて

息を吹きかけふうふうと

手を後ろくみ

頬(ほほ)朱(あか)く染め

振り向く君にドキドキしたのさ

君がわらった竿やのこえ

道の向こうの裏通り

背中きえいる

偲(おも)い出の夏 ummmmm.....

## [Interlude]

僕の止まった時計にWa

君のシュシュが巻いてある  
今年もかけたよあの「ふうりん」  
窓越し流れるやさしき風に  
りんりんちりりん君の声

君がわらった竿やのこえ  
道の向こうの裏通り背中きえいる

偲(おも)い出の夏  
りんりんちりりん君の声  
背中きえいる

偲(おも)い出の夏

さて、今日SUNOでアップしたばかりの楽曲ですが、もう聴いてごらんになられたでしょうか。  
そしてどう感じて頂けたでしょうか。

ちなみに世一は、作詞の勉強はしておりません。  
SUNOの勉強と、プロンプトの勉強だけです。

作詞・作詩は、持っているものだけで表現できるだろうと考えています。  
足りないもの……例えば「流行」などはネットが教えてくれますから、不自由をあまり感じることはありませんね。

今日、ここでこの曲を紹介させて頂いたのには一つの理由があります。  
まず歌詞をご覧いただきましょう。

#### Verse 1

ぬぎっぱなした僕の靴

はじめて君が部屋に来たとき  
脱ぎっぱなしたとおもったわと  
手首にまいたシュシュを外して髪とめる  
シヨコラに染めたアイデンティティーが眩しくて

#### Verse 2

奏(かな)でてよと君の声

僕が手にしたギターをおくと

奏(かな)でてよ

りんりんチリリン風鈴さん

メダカときんぎょも聞いているワ

一人で呟くきみの背中がいとしくおもえて

勘の良い御仁は既にお判りいただけるように、一つの歌詞に「同じ言葉」を入れています。

そして、一番も二番もキーになる言葉、オープナーの言葉の後には一行開けています。

ここには「イントロ」というプロンプトを入れているのですが、そのプロンプトが、楽曲づくりの上で絶妙な働きをしてくれます。

本来、「イントロ」というと最初の言葉の頭にくるのが当たり前でしょう。

[Intro]

[Verse 1] たらららゝあなたの……といった具合ですね。

それを一行下にずらすことによって、最初の言葉が持つ意味と性格をクローズアップさせることが出来ます。

奏(かな)でてよと君の声

[Intro]

[Verse 1] 僕が手にしたギターをおくと

奏(かな)でてよ

という具合です。

これは一つの「力技」と言えるかもしれませんね。

同じ言葉を歌詞の中で使うことによって、聴き手に強く印象付けることが出来ます。

普通に考えると、同じ言葉を一つの歌詞の中で使うと聞きにくくなりますね。

しつこくなります。

それを合理的に回避する方法は「人称」の使い方に顕れます。

一人称での言葉

そして、二人称での言葉

人称矛盾が生じているのです。

でもねこう置くことによって、性格付けと意味合いが変わりますから、不合理感は薄めることが出来ますね。

さて……ちょっと待てよ……これは何処かで……と感じた方もおられるかもしれません。

そう感じた方は、相当な「世一マニア」の一人です。

そう。poovel『F a e Trap』の最後の最後に使った手法と同じ手法なのです。

わかっておいてほしいこと……

小説だから、詩だから、作詞だからというハードルを設けることはマイナスにしかありません。

言葉を操るプロを目指すとするのですから、これは書けるけど、これは書けないというのは損でしょう？

わたしの大好きな、エゴンシーレが言いました。

「全ての芸術家は詩人でなければならないと」

そういう事なのです。

わたしは、ナンチャッテで詩を書きながら、ナンチャッテで小説のようなものを書いてきました。

でもね、こういう事ってね……誰かに教えてもらったことないのよ！

だって、文学という学問修めてないからねーオホホホホ

でもね、VZNTAS書けずに止まっているのよ(笑)

聴いてみてね、とても良い曲だから。

令和八年一月二十七日

今日は休ませてもらいました。

このところ、作詞と楽曲づくりと原稿書き。

ビッチリと時間を費やしてきたので流石に頭がくたびれてきた。

分らないでしようが……

書いているとき、創っている時の感覚は

張り詰めたギターの弦みたいになっていてキンキンなのです。

いつ「ビン」といって切れても不思議ではないぐらいに。

余裕でふざけ半分、適当に〜なんて思わないでよ〜

少なくともわたしはそういうタイプ。

だからね、些細なことでも琴線が敏感に反応しやすい状態なのだよ。

またね、そういう状態にならないと集中できないし良いものは創れない。

このところ書かせて頂いた歌詞であり楽曲にしてもそう。

蚯蚓の哥・あなたへ「偲い出のなつ」にしても、ビリビリに感性を研ぎ澄ました中で創作している。

小説もそうだ。

VANTASだって頭から離れることは無い。

ただ、御伽噺を書くときと純文系を書くときでは心のざわめきであり、頭のマグニチュードは全く違うのである。

純文系を書くときの頭のマグニチュードの振れ幅たるや多分想像できまい。

葛藤が……常時、葛藤が続く。

しかし、御伽噺を書くときは葛藤は殆どない。

夢殿にしても秋涙にしても、異端の KARAS は闇夜に二度啼くにしてもそうだが、御伽噺の部類だからね。あの子達。大衆小説だから。創作だものね。御伽噺だなぁ〜わたしにとってはなのだけ。

基本、あつてはダメなことは何もない。持ってるものならなんでもぶち込める。

純文系はそうではないからね。

結局さ、七日(nanoka)だって途中で止まったじゃん。まあ、病気とか躰の事情とか、手術とかあったけどさ、言うなれば、そのギリギリのやり取りから距離を置いた結果だからね。まあ、書くけどね。VANTASもさ。書くんだけど、純文系は苦しむのだよ。

まして、わたしのようにある種のデカダンスを内包した耽美なる世界を求める者にとってはこの二本は結構しんどい。

創る詩や歌詞を聞いててもわかるじゃん。いや、分かる人にはわかるって。

蚯蚓にしろ偲い出にしろ、退廃が根底に根差しているの。それを美化しようとする傾向が滲むことは読める者には読める。別に悪いことではないが〜

ただ、今日は思いもかけず楽しいこともあった(笑)  
笑えるような楽しい出来事。  
たった十五分だったけど、濃密な時間でした。

有り難うございます。

寝るべ。

## 二度目の令和八年一月二十七日

夕べの日記、日にちを間違えてたよね。  
直すの面倒だから、こっちを二度目にした。

今朝は早朝から病院で診察とインスリンを出してもらってきた。お陰様で、牀の調子は宜しい。  
さて、夕べのこと。

何年ぶりにデカダンスというカビの生えた言葉を使ったのだが、ここにお運びの方たちの大半は意味を解説するまでも無いだろうとは思うのだが、分からん人はググってみてくれ。分らぬままにしておく成長は無い。

まあ、わたしの書くものは、その人間同様取っ散らかっているからして、デカダンスからダダからロマンからがひっちゃかめっちゃかになっている。でなおかつ、耽美唯美を願っているというのだから始末に負えないのである。

本当はね、『飾窓』がわたしのデカダンスの一つの容になるはずだった。

燐冥に繋がる話のプロローグ的な役割の一つだった。

燐冥はデカダンス系統の作品にするつもりは無いのだが、テーマとしてはデカダンスを持ち込んだ方が簡単そうにも思っている。

書けんのかよ……あのエゲツナイモノが。

早くねえかあ？

二年以上書けなかったんだぞ、あれ。

飾窓の始末つけてからだよね……



さて、SUNOはチョイと一休みだ。  
ちょっと疲れた。  
本当に疲れた。

SUNOは創りたいものは二作を残して完成しているので、少し、VANTASの原稿と七日の原稿と向き合うこととしたい。  
はぁしんど。

何曲作ったのだろう。

作詞の数は大したことは無いけど、たしか21日連チャンでアップしてた気がする。  
どれが一番好きかと問われれば……

あなたへ「偲い出のなつ」かなあ

そして「蚯蚓の哥」

そして「亜麻……」

と続くのかな。

人気があったのは「満月だから」だね。

「ご結婚おめでとうございます」も支持厚だわ。

「亜麻……」と「一人にしないで」も厚いね。

月末にさ、今月の再生ベストテン出すので、見てやってね。

ネルか。

## 令和八年一月二十八日

今朝の目覚めは……なんと十一時だった。

夕べは普通に十一時半に就寝。

一時半にトイレに行きたくなり一度起きて、二時半に寢床へ。

普通なら六時前には目を覚ますところなのだが……

十一時であった。

多分、頭が疲れていたのだろうと思う。

年が明けて、五日からこっちずっと頭を使っていた。

作詞という普段やってこなかったことを根をつめてやっていたので疲れたのだろう。

ただ思いついた言葉を並べているわけではないからね。

文脈であり、前後の言葉との相性、音楽になった時の親和性と不協文律。

言葉に内包させるべき想いと聴き手の感じ方。

わたしレベルで考えられる因子は可能な限り洗い出して歌詩にしている。

SUNOに入るとまた手が動き始めるので、聴くだけにとどめている。

おかしい夢を見た。

「うんち」の夢なのだが……

とんでもなく長く太いウンチが永遠と出てくる夢だった。

ここで永遠と書いたが、普通のものと比較して比べ物にならぬほどの長さだったと理解してほしい。なんだそのような夢を見たのだろう。

不明だ。

お通じは、まあ普通に出ている。だから潜在意識が求めた結果とはいえない。

人間の脳というのは不思議なものだ。

さて、この日記もどうしたことか30名のあなた様からのダウンロードを頂戴するようになった。

多分、面白いことは書けないと思う。

noteやアメブロに書けないような日常の徒然ぐらいしか書くこともない。

退屈になったら放っておいてくださいね。

そう言えば……noteのわたしの読書かんそう文をひっくり返しながら読んでいかれているクリエイター

さんがおられる。

何が楽しいのか分からぬが、そういう人が居るとい話である。

あまり書いてないんだけどね。多分、片手で足りるくらいなのかな。

感想文というよりは、わたしの書くものは解析に近い。

どうもそういう角度から読むようになってしまっている。

ただ書いたものへの評価はあまり低くない。有難いことだ。

具体的に例を示して書いているから、多分落とし込みやす野だと思う。

わたしの書く感想文には必ず、読書かんそう文、読後かんそう文と書くようにしている。

これは『不完全さ』を表現したくてそう書くようにしているのである。

本家本宅でもそうだ。

ショートショートの宝箱の感想文は随分書かせてもらったが、かんそう文としているはずだ。

今だから話すけど。あの原稿を書きはじめてときには随分悩んだ。

要は書き手は皆シロウトさんでしょう？

そこに「好き嫌い」が偏ったただの本読みが感想を書くことに対する申し訳なさだ。

でもね、書いている人って感想きけたら嬉しいはずなのよ。

わたしだって嬉しいと思う。

だから、なるべく具体的に合理性を伴わせることに腐心した。

感覚だけで「スキ嫌い」「つまらん」とすることの無いように。

たださ、わたしの場合はほら、読めるジャンルが純文学系と大衆小説系、そして昭和と平成のエンタメ系と限定的だからね。今のものはほとんど読めないに等しい。

でもさ、幸いにしてというか、あの感想文を書かせて頂いていてわたしが読めないなぁと感じたものは2〜3話だったと記憶している。

あとは凡てわたしでも読める作品。

あれからnoteという存在を知ってウダウダ書きはじめるようになったのだけだ。

その時に、シロウトさんの作品に感想を書くことはやめようと考えた。

読み専なら書いてもいいと思うけどね。

書きもやるなら駄目だなと。

不遜だべーと考えるようになった。

おやすみ

令和八年一月二十九日

出典

noter 堀間善憲氏 著

2026年1月28日原稿 アナログ派の愉しみ／アニメ◎『巨人の星』より一部抜粋の上拝借

[https://note.com/brave\\_zinnia/300/n/6b94701cb43a](https://note.com/brave_zinnia/300/n/6b94701cb43a)

野球に完全試合があっても、人生に完全試合などありはしない、ただ歯を食いしばって前に向かって歩いていくのみだ。わたしもこの教えに励まされて、それからの長い歳月をともかくも自分を失わずに生きてこられたような気がする。

2026年1月29日原稿 アナログ派の愉しみ／アニメ◎『巨人の星』【追記】より一部抜粋の上拝借

[https://note.com/brave\\_zinnia/300/n/2974715f9e74](https://note.com/brave_zinnia/300/n/2974715f9e74)

もし飛雄馬のように志高い野球少年が、将来の完全試合の投手をめざるのであれば、スリー・ボールのカウントから打者と真っ向勝負できる技を身につけることが条件となるのでしょう。

日記である。読み手から寺銭を頂戴する性質のものではない。

ここに抜粋紹介させて頂いた原稿は、それぞれ結びの言葉として原稿を締め括った堀間氏の手による最後の数行だ。

前半は、自らの仕事と巨人の星をオーバーラップさせた興味深い話が続く。

後半は巨人の星を通じた、氏の持つ人生訓らしき言葉が並ぶ。

「わたしもこの教えに励まされ」

まあ、ここだろうね。この巨人の星というアニメ……物語を「教え」即ち教訓と出来るかどうかあの時代の人間の伸びしろを大きく左右したであろうことは疑いようもない。

小学校3年生の頃だったようだ。

わたしは小学校1年生になった頃の話である。

小学校の低学年であの漫画を教訓に出来るだけの受け取り方は出来るものだろうかと考えれば。

正直を書かせて頂くなら、教訓としての受け取りよりも、飛雄馬がぶっ倒れ、一徹に背負われて去る姿の印象の方が強く焼き付いていたのではないかと考えるのだ。

わたしも泣きながら観ていた記憶がある。

後年だろう。成長するに従い負わなければならぬものが増えはじめる。

この時に想い出すのである。

その想い出したタイミングで置きどころで決まるのではないだろうか。だって、堀間さん小学校三年生でこれを人生訓にできる少年で……凄いなと思う(笑)

まあ、思い出したタイミングと置きどころが甘ければわたしのような場所に甘んじるしかなく。想い出したタイミングと置きどころが、しょっぱければ、堀間善憲氏のようにになる。

そういう塩梅の話である(笑)

いやいや、待て待て(笑)

別に捻くれて嫌味を言うつもりは無い。事実である。

あのね。良い原稿なのだよ。モチベ系の原稿としてはこれ以上ないほど完成された原稿なのだ。なにせ、今生きている人間による自分の言葉を使ってるの考え方を披露しているのであるからこれ以上ない手本とすることも出来るのだ。

令和だ平成だ、昭和だと時代時代による社会風俗の変遷であり違いが声高に叫ばれる時代ではあるが、どうだろう。わたしは必要だと思うのだが。

少なくとも、そういうモノを感じることが出来る人間はいるはずなのだ。

それで良いのだろう。

自らの成功であり、失敗であり、哲学であり、自らに及ぼした影響を語る上においては、やはり、魂を載せた言葉を吐くことである。

これ程人の心を動かすものは無い。

だって、目の前で経験した人間の言葉なのだから。

これ以上説得力のある言葉は無い。

死んだ人間の言葉は、どうも「あげ底感」が滲んで好きになれぬのである。

ごめん。一行だけゆるして。

先日、とある御仁と「毒おや論」を交わさせてもらった。

わたしがこの世の中で最も嫌いな言葉である。

なんとも言えなくイヤらしいのだ。

毒おや一羽一絡げである。

意見を交わさせてもらったのち、ふと脳裏を過ったものがあつた。

もしも子供の頃から多感な少年時に「毒おや」という言葉がわたしの身近にあったとしたら、わたしの

生きずがらはどうであつたろうと。反面教師として親眺め、少しは違ったのだろうか。そしてわたしも「毒おや」という言葉を吐いていたのだらうかと。そこまで考えて、わたしは気持ちが悪くなった(笑)

今を生きる人たちにどう思われても良いのだが。

わたしは自分の親を「毒おや」と呼ぶ人間に育てられなかったことに感謝したい。

どんな思いをしても自責と見つめることが出来るよう育ててくれたことに感謝したい。

ちなみに堀間さん。

わたしたちのチョイと上の世代は「でたよ例えを持ち出すと野球の話し」と言われておりましたが(笑)まあ、アニメですからね。幾分今寄りという事にしておきましょう。

「スリー・ボールのカウントから打者と真っ向勝負できる技を身につけることが条件となるでしょう」ノーストライクかよ(笑)

あたしあたり、ファールチップで、ワンストライクはとっているつもりなのだがw

てかゝ待つて待つて。わたし誰かと勝負してるつもりないし。

どうでもいいかな、もう。誰かとの勝負。さんざんやってきたから疲れちゃった。

自分が行きたいところを目指すだけかなあ。

やりたいことやるだけだし。

んで、お座敷掛からなければそれまでのこと。

なんかね、仕事さ、目一杯やったのよ本当に。

最後はね、書くことが仕事になってもいいけどね。

ただ……あたしは芸術家で死にたいなあ。

うん。

芸術家がいいなあ。やっぱり。

詩編『道程』飛鳥世一

2024年7月5日

背負子をしょって歩いてる

石がたくさんはいってた

躰傾け道を往く

俺は重いでしょうと声かけた

男いふ

なぁに、しよえる石を集めただけさ

躰が前えとのめってますよ

転ばないでと声かけた

男いふ

踏ん張るためにのめるさ

私は声かけた、それでは周りの景色も見えません

野ユリが道端こうべをきざみます

男いふ

なぁに、拾った石が教えてくれる

山で拾った石は焼けたにほい

川で拾った石は水のにほい

草原の石は草露のにほい

男、やにわに立ち止り

後ろ振り向き汗拭う

ウチは訊ねる、何見ていると

後ろの景色と足跡さ

野ユリの橙あお空染めてる

山あり川あり草原あり

爪先だけが挟れた足跡あり

僕が探した自分の足跡

きつと並んでついでるはずさ

おやすみなさい。

謝辞

堀間善憲様

この度は、わたしの我儘な申し出を快くお受け下さり誠に有り難うございます。

原稿の中身もパツとしませんことから、わたしの日記でのご紹介となりましたことお詫び申し上げます。

ただ、こうして関りを少しでも頂戴しておりますと楽しくてね。それも皆様よりの恩典に浴してのことと各方面の皆様にも重ねて御礼申し上げます。

堀間さんの原稿は書かれるたびにお邪魔しております。

引き続き、宜しくお願い申し上げます。

飛鳥世一

令和八年一月三十一日

このところ熱心に読ませて頂いているクリエーターさんがいる。

フォローかぶりの顔ぶれを見ると、十数名ほどおられるのだがどちらもわたしが一目二目置かせて頂いている書き手ばかりである。

フォロー、フォローワールの全体概要を眺めてはいないのだが、「かぶり」の按配をみるだけでその内容は押して知るべしの体だ。

氏の原稿を読ませて頂くようになったのは、氏から頂戴したスキのお心遣いに触れてからのことになる。わたしの場合は、自ら知らぬクリエーターさんの元に向き、ポチポチするタイプでは無いからして、スキを頂戴したらお礼に出向きポチポチするようにしている。

謙虚なのだ。この辺りは誠実であり謙虚な姿勢である。

頂戴したらお返しすべきと心得ている。

もうスキの交換をさせて頂くようになって数カ月がたとうか。

ただ、お互いにフォローフォローワールの動きにはならない(笑)

なにか腰が重い。

良いのだよ。それで。

読んでほしいものがある時はスキを押しに行く。

頂戴したら、読ませて頂きスキを押す。

別にフォローフォローワールじゃなくとも読めるしスキも押せるのである。

むしろ闊達と云えば闊達。ふり幅も自由だ。

実のところこうして書きながら悩んでいる。



氏の原稿にはコメント欄が無い。設定で外しておられるのだろう。

この辺りにも氏の「姿勢」が覗われるのである。

ベタベタしたものが好きではないのかもしれないが、それもまたわたしの思い込みかもしれない。

さて、何を悩んでいるかと言えば、出典付きで原稿を借りて来るかどうかについて悩んでいるのである。と、書きながらの内に腹が決まった。駄目だね。ご本人に裁可のお伺いを立てられぬのであれば例えば一行でも、作品をコピーして持つてくるべきではなく、ましてや言葉を自分のものとし置き換えて書き換えることもするべきではない。

作家の言葉とはそういうモノだ。

自分の言葉として置き換えたときに言葉の持つ「温度と影」は確実に変化する。

わたしだったらそれを嫌うだろう。

コピーして借りることが出来なければ諦めるべきなのだ。

まして、わたしのように「影」を読み込むところが本読みのダイナミズムと考える者は、不可侵とすべきは不可侵にしておかなければならない。

良かったら、詳細を添付しておくので読んでみてほしい。

#### ■紙と文字 エッセイの森

作家〈有城佳音 画家〉有城見萌 昭和生まれ。50代夫婦との紹介書きがある。

<https://note.com/kanitomoji>

読んで頂きたい原稿はこれだ。

<https://note.com/kanitomoji/n/n7981294calce>

少し斜に構えた書き口となるようだが……

しかし斜に書き口にとって日本語の言葉とは、その意味合いを変幻自在と成すものである。

章半ばまで姿をみせなかった「かもしれない」という言葉が、章後半においては「かもしれない」と連発しているのである。

この辺りが機能しての「結び」の七行であるのかどうかは分らぬが、わたしにするのであればやや玉虫色に染め抜いた……と読めてくる(笑) ごめんなさい。

まあ、元々がそういう書き口を好んでおられるようにも見受けられるからして、別に玉虫色に染めたわけでもなからうが、わたしのようなのが書くものとは一線を画す。

最後の結びの四行は、それまでの自らの視点を問う……ものを内包しつつ「限定的な」締めくくりとしているのだが……

これは、わたしのような物書きに読ませると「だから？」となってしまう(笑)  
いや、不自由に読めてしまうのである。

そういうものを抱えながら生きることがである。

わたしにとっては必要な視点、「俺は、今から朝飯だ」なのだ。言わんとすることは分からなくはない。  
最後の四行を活かすための前振りとしての前段の「かもしれない」であれば効きは見せることが出来た  
のだろう。しかし、わたしにとってはそれだけのことなのだ。

誤解の無いように申し上げるが、良いのである。全然良いのだ。

ほらほら〜こういう面倒臭い奴がいるから設定でコメント欄をオフにするのだよ(笑)

小説であれば始末のつけように悩むことは無い。

しかし乍ら、ものはエセーである。

この辺に読後の煮え切らないものを抱えるタイプの人間は必ずいる。

がだ、分かった気にはならぬことだ。

氏の人生のツメの先ほどのことである。

そう思うぐらいが丁度良いのである。

また良い書き手に巡り合えた。

さて、今日は三十一日の現在午前四時三十分。  
少し寝るか。

午前八時五十分 加筆修正

わたし、日記書きはじめて良かったと思う(笑)

## 二回目の令和八年一月三十一日

文学的○○の○○となれて光栄です！

先日、わたしがとあるご仁から頂戴した言葉である。

はじめて下賜拝領にいたった有難い言葉である。

わたしは自分の作品を自ら文学と呼ぶことは無い。これは随分前から綴ってきたことだが「文学」とは何処まで行っても学問である。従って、修めてなんぼという性質を有すると思っっている。これは卑屈でもなんでもない。でなければ、学問の意義と云うものは霧散する。よって、修めた人の評としても適切な言葉となるのは「文学的」となることは道理なのである。

本当に嬉しく、有難い言葉を頂戴したとおもっている。

どれほどわたしが有難く感じたことだろう。  
寧ろ、この言葉を然るべき「正統」なる筋から届けられることを願って書いてきたと申し上げても言い過ぎではない。

まあ、これは分かる者には分る。分らぬ者には分らぬ話ということで良いのだが、  
しかしながら、こうして感謝と感動の思いは綴らせてもらわねばならない。

過分なるお言葉心より厚く御礼申し上げます。有り難うございました。

まあどの道、アウトサイダーアートの一つの容という括りである。

悔しいねえ、

うん。本流ではない。本流にはなれない。

この時代においては異端なのである。異物なのである。

音楽を作っても作詩をしても詩を作ってもそうなのだ。

異端であり異物なのだ。

いくら読み手や聴き手を驚かそうが、際物どまりである。

うん。何が悔しいと言って、わたしにとってこれほど悔しいものは無いね。

依るべきところが無いのである。まあ、学問が介在する分野においては「根無し草」なのだ。

以前、ハラルルを研究していて研究ノートの体を纏めたことがあるのだが、その際に農林水産省から国際機関に出向となり、定年をむかえたご仁がおられた。わたしはこの人物を「師」と仰ぎ、常日頃から師

匠と呼ばせて頂いていた。

研究ノートを纏めた際に師匠から頂戴した言葉が「随筆学問だね」という言葉だった。

この時に、わたしは多分「何をやっても本流には為れぬか」と悟ったのである。

誤解の無いようにしてほしい。

これは恨み言ではない。

寧ろ、わたしは大いに感謝した。考え違いをしなくて済むように指導して頂けたのだから。

おかげで、わたしはハラールと云うものの「ゼロ起点」、グランドゼロを丁寧に着ぶことが出来た。そして、宗教と信仰いうものを糊口を凌ぐ手立てとすることなく勉強することが出来た。

二十二を過ぎてからだろう。あらゆる勉強を独学でしはじめたのは。

負けたくなくて、負けたくなくて。

たとえ先輩であっても、ものを聞くということはしなかった。

分らぬことは凡て自分で調べた。

いつしか「怪物」が出来上がっていた(笑)

学校を出た職場の上の先輩たちであろうがお構いなしに「なんか勝てるものアンの？」と平気でやる小僧になっていた。とんでもねえガキである。

まあ、実際よく仕事はしたからね。

コンプレックスだろうなあ。兎に角、勉強したかった。英語からワープロ、パソコン、マーケティング、QC理論、歴史、建築、絵画。ありとあらゆる仕事で有益と思われるものは徹底的に自分でたたき込んだ。その結果の「怪獣」である。

結局さ、ハラールのことにしても20000時間以上引き籠って勉強して一つの容になった。その結果、自分が目指したところの近くまでは行けた。

だからね、勉強は裏切ることは無い。

ただし、意志の働かせ方しだいなのだろうね。

今でも思うけど、わたしは当該宗教を信仰しない者としてはギリギリまでやらせてもらったと思っている。ここから先は「政治家」になるか「ムスリム」になるかのどちらかという所までは突き詰めさせてもらった。

まあ、この辺はVANTASで書くけどね。

長くなったなあ

寝不足で何を書いているか分からなくなってきたよ。



---

世一の創作日記

---

著 者 飛鳥世一(辻話人〔フル〕)

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---